

世界旅打ち気分

●第38回・カタールとバーレーン

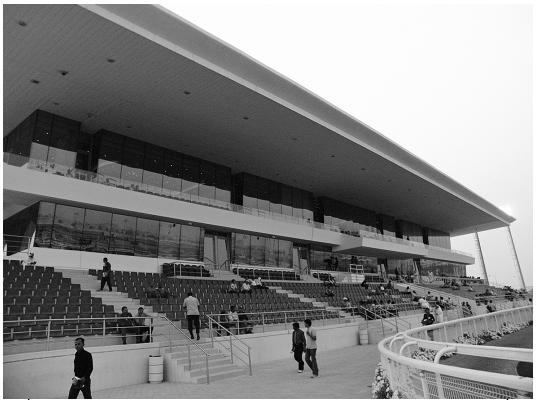
須田鷹雄



バーレーンの「馬券売り場」はこんな感じ



アルライヤン競馬場のレース風景



近代的なアルライヤン競馬場のスタンド

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatatakaoshoten/>
の
#グリーンファーム会報#2021年10月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatatakaoshoten/>

今回は「旅打ち」と言いつつ馬券が買えない競馬場から話を始めたい。カタールの競馬場である。この連載では過去にJAEの競馬場を紹介したが、同国はイスラム教国なので馬券はなく、6レースの勝ち馬を1点で当てるとか、3連単を1点で2レース当たるなど、無茶な懸賞だけが行われている。

カタールも同様に馬券はない。ただ最近は国際競走が行われるなど、競馬は盛り上がりてきている。また、フランス競馬のスポーツサーカタール」と付いていたので、そちらで意識していた日本の競馬ファンも多いだろう。

私がカタールの首都ドーハにある競馬場へ行ったのは2012年。ドバイに取材に行く際のトランジットを利用して、この会報でも連載している日黒貴子さんと「カタール空港待ち合わせ」で競馬場へ向かった。

ドバイだとレンタカーでどこででも行ける筆者だが、カタールははじめてで交通事情も分からず、それ以前にどうにかあるのかも分からぬ。当時はまだスマホでグ

な揚げ物、コハビに売っているビザパンのようなもの、以上くらいしかなかった。カレーはなかなかおいしかったが、選ぶ楽しみという点ではいまひとつだ。

レースも滞りなく立派に行われているのだが、ソウルにいながらいぶんネタにもならないというか、すべてがフツーである。

ということで、国際競走でもない限りわざわざドーハに行く必要もないが、1~4月の水木ナイヤー(一部例外あり)なのでドバイと組み合わせやすい。JAEとカタールの断交で停止されていたドバイとカタールの直行便も今年2月から再開された。コロナ禍が終わたら2つまとめ、という手はあるだろ。

今回紹介するもうひとつの競馬場が、バーレーンの競馬場。正式名称は「シンダ・イクエストリアン・アンド・ホース・レーシング・クラブ競馬場」というらしい。ここへ行つたのはもう17年も前のことになる。同業の先輩である斎藤修さんと松田京子さんがドバイ取材期間中、日帰りでバーレーンに行くと、そこで連れて行ってもらつた。現地では斎藤さんのお知り合いの現地

一ヶ月マップという時代でもなかつたよつて思つ。そこで「運転手付きレンタカー」を借りた。ショーファーサービスというやつである。本連載では「アリビン」の競馬場に行く際同様のサービスを使うべしという話書いたと思うが、国によつてはセリフ運転でなく、運転手付きで車を借りるのが一般的だつたり、安全性の面からおすすめだつたりする。

運転手と合流した時点ではまだ1レースの発走まで時間があつたので、「なんか市内で観光客が楽しめたうなところに寄つてよ」と運転手にリクエストしたのが……。それで、「なんか市内で観光客が楽しめたうなところに寄つてよ」と運転手にリクエストしたのが……。

連れていかれたのはバリバリにアーリカ風なショッピングモール。いやこれ、カタール感全然ないじゃん。こちらとしてはローカル感溢れる市場とか、風光明媚スポットに連れていくほしかつたのだが、現地人としては「ドーハにも」んなに近代的な商業施設ができたんだぞ!」というのが自慢だったらしい。考えてみるとドバイも我々が行くようになつた初期は、バージュマンセンターとかシティセンターといったモールが推されていました。

現地人としては「ドーハにも」んなに近代的な商業施設ができたんだぞ!」というのが自慢だったらしい。考えてみるとドバイも我々が行くようになつた初期は、バージュマンセンターとかシティセンターといったモールが推されていました。

施設としてきれいで整つてはいる

んだけど、特にカタール感無いから響かないんだよね」というのは、

競馬場も同様であった。カタールでは唯一の競馬場であるアルライヤン競馬場は1975年創設というの

数年前に改装されたいへんきれいなんだけ面白みは無いよね

といふのが正直なところ。なにぶん9年前の話なので変わっていた

ら申し訳ないが。

そもそもヒラ開催のときには

般ファンがそう多くいるわけでもないし、場内にいるのは関係者が

メイン。来場客向けの施設というの

は一切ない。ATMだけはあつたと記憶しているが、馬券がないので

軍資金用ではなく、おそらくは厩

舎関係者用だ。

食べ物を卖つているのも1か所

だけで、スタンド2階の食堂。ここ

は窓際の席に座るとハドックがす

ぐ目の前で「1レースも見渡せるとい

う素晴らしいロケーションなのだ

が、メニューがしょぼい。我々が行つた日には辛くないチキンカレーラ

イスのようなもの、サモサのよう

施設としてきれいで整つてはいる

んだけど、特にカタール感無いから響かないんだよね」というのは、

競馬場も同様であった。カタールでは唯一の競馬場であるアルライヤン競馬場は1975年創設というの

数年前に改装されたいへんきれい

なんだけ面白みは無いよね

といふのが正直なところ。なに

ぶん9年前の話なので変わっていた

ら申し訳ないが。

そもそもヒラ開催のときには

般ファンがそう多くいるわけでも

ないし、場内にいるのは関係者が

メイン。来場客向けの施設というの

は一切ない。ATMだけはあつたと記憶しているが、馬券がないので

軍資金用ではなく、おそらくは厩

舎関係者用だ。

食べ物を卖つているのも1か所

だけで、スタンド2階の食堂。ここ

は窓際の席に座るとハドックがす

ぐ目の前で「1レースも見渡せるとい

う素晴らしいロケーションなのだ

が、メニューがしょぼい。我々が行つた日には辛くないチキンカレーラ

イスのようなもの、サモサのよう

は一切ないと想つて今度はファンとして楽しみたいと思っている。

ところも、バーレーンには「馬券

スがある日で、そのため国王がおい

でになっていたらしい。

このときは業務エリアを長時間

案内されたので一般ファンエリアに

は1レースしかいられなかつたのだ

が、可能なら再訪して今度はファンとして楽しみたいと思っている。

ところも、バーレーンには「馬券

スがある日で、そのため国王がおい

でになっていたらしい。

ところも、バーレーンには「馬券

スがある日で、そのため国王がおい

でになっていたらしい。

このときは業務エリアを長時間

案内されたので一般ファンエリアに

は1レースしかいられなかつたのだ

が、可能なら再訪して今度はファンとして楽しみたいと思っている。

ところも、バーレーンには「馬券

スがある日で、そのため国王がおい

でになっていたらしい。

ところも、バーレーンには「馬券

スがある日で、そのため国王がおい

でになっていたらしい。

このときは業務エリアを長時間

案内されたので一般ファンエリアに

は1レースしかいられなかつたのだ

が、可能なら再訪して今度はファンとして楽しみたいと思っている。